

平成30年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

甲斐市立敷島北小学校

■この調査は・・・

義務教育の機会均等とその水準の向上のために、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析して教育施策の改善を図るとともに、一人ひとりの児童生徒の学習の課題を把握して指導改善につなげるために実施しました。本校の子どもたちの課題について共通理解を図り、学校・家庭・地域が一体となって学力・学習状況の改善に取り組めるよう、結果の概要をお伝えします。

■調査の結果は・・・

対象が小6と中3、教科も国語／算数・数学／理科に限られています。したがってここに示す結果は児童生徒の「学力の特定の一部」であることをご理解ください。（理科は、3年に1度の調査となります。）

1 調査結果について

■学力調査結果からみえる本校の子どもたちの姿

- ・国語・算数ともに「知識」をみるA問題の方が、「活用」をみるB問題の方より正答率が高いです。
- ・国語では、A・B問題ともに、全国より平均正答率が高く、成果がみられます。特に、「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は高い定着力があり、日常の読解力の成果がみられます。一方で基礎的な漢字・慣用句の使い方を選択する問題の正答率が全国に比べ低いことから、定着に課題がみられます。
- ・算数では、A・B問題ともに全国より平均正答率が高く、成果がみられます。特に「数と計算」では全国の平均正答率よりもかなり高い結果がみられ、日々の取り組みの成果が現れています。数や図形について、式や言葉を使って説明する力を育成することができるよう、今後も継続して指導していきます。
- ・理科では、全国より平均正答率が高く、成果がみられます。「流れる水のはたらき」「物のとけ方」については定着状況に課題がみられます。

■質問紙調査からみえる本校の子どもたちの姿

- ・よい傾向がみとめられる項目
「学校のきまりを守っていますか」「今住んでいる地域の行事に参加していますか」「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」については高い数値を示しています。
- ・課題となる項目
「自分には、よいところがあると思いますか」「毎日、同じくらいの時刻に寝ますか、起きますか」「地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがありますか」とした児童の割合が低いです。

2 これからの取組について

■学校で取り組んでいくこと

- ・「自分には、よいところがあると思いますか」という質問に対する数値の低さから、自尊感情が低い児童に対し、互いに認め合い、高め合えるような授業や学級集団作りを行います。
- ・日常的に活用できるように漢字やことわざ・慣用句などを工夫して取り入れ、生きた語彙の習得ができるような活動を取り入れていきます。
- ・「図形」の学習では、図形の操作活動をしながら、式や言葉を活用していく授業をさらに継続して実践していきます。
- ・理科の学習では、実験や観察の前に自分の予想や考え方を発表する機会を多くもち、考えを説明したり発表したりする表現力を身に付けさせていきます。

■家庭において取り組んでいただきたいこと

- ・学年ごとの「家庭学習の手引き」を活用し、励ましの言葉をかけていただくとともに、一緒に考えたり学ぶ姿をみせたりするなど大人が関わってあげてください。
- ・「早寝・早起き」などの生活習慣を身に付けさせるためにルールを決めて守らせましょう。
- ・自尊心を育てるために、家族としての役割をもたせ、仕事や学習の様子を認めたりほめたりして、成功体験をたくさん得られるような場面をつくってください。